



平成23年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成22年7月30日

上場会社名 持田製薬株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4534 URL <http://www.mochida.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 持田 直幸
 問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役専務 (氏名) 青木 誠 (TEL) 03(3358)7211
 専務執行役員
 四半期報告書提出予定日 平成22年8月13日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第1四半期の連結業績（平成22年4月1日～平成22年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第1四半期	19,520	0.4	3,504	△12.0	3,768	△12.2	2,159	△16.4
22年3月期第1四半期	19,438	4.2	3,982	19.0	4,291	12.6	2,582	29.3

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
23年3月期第1四半期	19	35	-	-
22年3月期第1四半期	22	61	-	-

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円	銭	
23年3月期第1四半期	107,003	80,216	80,216	75.0	718	73		
22年3月期	106,845	79,768	79,768	74.7	714	68		

(参考) 自己資本 23年3月期第1四半期 80,216百万円 22年3月期 79,768百万円

2. 配当の状況

	年間配当金								
	第1四半期末		第2四半期末		第3四半期末	期末	合計		
	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭	
22年3月期	-		11	00	-	14	00	25	00
23年3月期	-								
23年3月期(予想)			11	00	-	11	00	22	00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無：無

3. 平成23年3月期の連結業績予想（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、第2四半期（累計）は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第2四半期（累計）	38,400	△2.2	6,000	△26.0	6,600	△21.7	4,100	△30.7	36	74
通期	79,000	0.6	11,000	△21.1	11,700	△21.6	7,200	△27.0	64	51

(注) 当四半期における業績予想の修正有無：無

4. その他（詳細は、[添付資料] P. 3「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動：無

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用：有

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更：有

② ①以外の変更：無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

23年3月期1Q	123,000,000株	22年3月期	123,000,000株
23年3月期1Q	11,391,364株	22年3月期	11,385,768株
23年3月期1Q	111,609,618株	22年3月期1Q	114,206,773株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想につきましては、本資料発表日時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	2
2. その他の情報	3
(1) 重要な子会社の異動の概要	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
4. 補足情報	9
(1) 主要製品の売上高	9
(2) 医薬品開発状況	10

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

医療費財源確保の問題を背景とする薬剤費抑制諸政策が継続的に進められ、また国内外の企業間競争が一段と激化するなど、引き続き厳しい環境下にある医薬品業界では、本年4月には「新薬創出・適応外薬解消等促進加算」の試行的導入を含む平成22年度薬価改定が行われ、事業環境の変化にいっそう拍車がかかりました。

このような状況下、当第1四半期連結会計期間における当社グループ（当社および連結子会社、以下同じ）は前期に引き続き、グループ経営体制の整備、人員の適正化、全社的な生産性の向上への取り組みなど、経営全般にわたる業務改革を推進いたしました。医薬品関連事業では、重点4領域（循環器、産婦人科、皮膚科、救急）にリソースを集中し、スペシャリティファーマを目標として、主力製品を中心とした学術情報提供活動を積極的に展開いたしました。ヘルスケア事業は、敏感肌のための基礎化粧品のエキスパートとして事業活動を行い、マーケティングの強化に努め市場開拓を図ってまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間の売上高は、195億2千万円、前年同期比0.4%の増収となりました。

これを事業別に見ますと、医薬品関連事業では主力製品の高脂血症・閉塞性動脈硬化症治療剤「エバデール」および持続性Ca拮抗降圧剤「アテレック」を含む長期収載医薬品が薬価引下げの影響を受けたものの、経口プロゲステロン製剤の子宮内膜症治療剤「ディナゲスト」が順調に伸長したことにより、売上高は186億2千3百万円、前年同期比0.4%の増収となりました。

ヘルスケア事業は市場が低迷しているなか、抗真菌剤配合シャンプー・リンス等の抗菌ケア製品「コラージュフルフルシリーズ」が堅調に推移し、売上高は8億9千7百万円で、前年同期比1.2%の増収となりました。

次に当第1四半期連結会計期間の利益面ですが、薬価引下げに伴う売上原価率の上昇および研究開発費の増加等により、営業利益は35億4百万円、前年同期比12.0%の減益となりました。また、経常利益は37億6千8百万円で前年同期比12.2%の減益、四半期純利益は21億5千9百万円で前年同期比16.4%の減益となりました。

研究開発の状況につきましては、創薬研究所は独創的グローバル新薬の創製を目指して、引き続き、慢性疼痛、糖尿病・肥満の2分野にテーマを集中して活動いたしました。国内外の機関との共同研究等により研究活動の効率化を図り、敗血症治療薬（抗体医薬）の導出活動にも積極的に取り組んでおります。

なお、米国ワイス社から返還された自社創製の疼痛治療薬については、自社で臨床第Ⅰ相試験に着手しました。引き続き本剤の導出活動も進めてまいります。

臨床開発面では、抗うつ剤「MLD-55」が製造販売承認申請準備中です。また、「ベセルナクリーム」は日光角化症を対象とした臨床第Ⅱ相試験を終了しました。バイオ後続品G-CSF製剤「FSK0808」は臨床第Ⅱ/Ⅲ相試験を開始し、潰瘍性大腸炎治療剤「MD-0901」は臨床第Ⅰ相試験を終了して臨床第Ⅱ/Ⅲ相試験の準備段階に移行しました。開発パイプラインのその他の品目については、肺動脈性肺高血圧症治療剤「MD-0701」の臨床第Ⅱ/Ⅲ相試験、「エバデール」の非アルコール性脂肪肝炎の臨床第Ⅱ相試験（米国）、およびヒト間葉系幹細胞を利用した細胞性医薬品「JR-031」の移植片対宿主病（GVHD）を対象とした臨床第Ⅰ/Ⅱ相試験をそれぞれ実施中です。なお、「エバデール」のスイッチOTC薬については製造販売承認申請中です。

当第1四半期連結会計期間の研究開発費は21億8千1百万円です。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当社グループの当第1四半期連結会計期間末の総資産は、1,070億3百万円となり、前連結会計年度末比で1億5千8百万円増加いたしました。

資産の増加は、主に手元流動性資金が減少しましたが、受取手形及び売掛金が増加したためです。負債・純資産の増加は、主に配当金、法人税等の支払がありました。四半期純利益により増加したためです。

（キャッシュ・フローの状況）

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、253億1千9百万円となり、前連結会計年度末比で11億1千4百万円減少いたしました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、法人税等の支払などがありましたが、税金等調整前四半期純利益などにより7億6千9百万円の収入（前年同期比65.4%減）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形・無形固定資産の取得による支出などにより3億4百万円の支出（前年同期は7億8百万円の支出）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払などにより15億7千9百万円の支出（前年同期は13億9千2百万円の支出）となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループを取り巻く事業環境につきましては、今後も厳しい状況が継続すると考えられますが、ほぼ計画に沿った業績で推移しているため、平成22年5月14日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

法人税等の納付額の算定に関しては、加味する加減算項目を重要なものに限定する方法によっております。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化が認められない場合には、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックスプランニングを利用する方法によっております。なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

資産除去債務に関する会計基準等の適用

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。これにより、営業利益、経常利益が4百万円減少し、税金等調整前四半期純利益が194百万円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は241百万円であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	23,517	24,633
受取手形及び売掛金	24,771	23,672
有価証券	9,322	9,321
商品及び製品	7,724	6,766
仕掛品	1,928	2,379
原材料及び貯蔵品	2,518	2,526
繰延税金資産	3,107	2,829
その他	1,898	1,687
貸倒引当金	△0	△4
流動資産合計	74,788	73,812
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,145	7,216
機械装置及び運搬具(純額)	2,546	2,724
土地	6,088	6,088
建設仮勘定	738	694
その他(純額)	1,240	1,311
有形固定資産合計	17,759	18,036
無形固定資産		
投資その他の資産		
投資有価証券	8,564	8,805
繰延税金資産	2,732	2,893
その他	1,837	1,893
投資その他の資産合計	13,134	13,591
固定資産合計	32,214	33,033
資産合計	107,003	106,845

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,002	7,396
短期借入金	500	500
未払法人税等	1,369	3,161
賞与引当金	1,217	2,649
その他の引当金	724	920
その他	8,792	6,422
流動負債合計	20,605	21,050
固定負債		
退職給付引当金	4,826	4,887
その他	1,353	1,140
固定負債合計	6,180	6,027
負債合計	26,786	27,077
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,229	7,229
資本剰余金	1,871	1,871
利益剰余金	81,174	80,577
自己株式	△10,385	△10,380
株主資本合計	79,890	79,298
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	325	469
評価・換算差額等合計	325	469
純資産合計	80,216	79,768
負債純資産合計	107,003	106,845

(2) 四半期連結損益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
売上高	19,438	19,520
売上原価	7,036	7,372
売上総利益	12,402	12,148
返品調整引当金繰入額	1	3
差引売上総利益	12,401	12,145
販売費及び一般管理費	8,418	8,640
営業利益	3,982	3,504
営業外収益		
受取利息	15	11
受取配当金	103	106
ロイヤリティ収入等	326	113
その他	33	45
営業外収益合計	480	277
営業外費用		
支払利息	9	6
支払手数料	—	5
持分法による投資損失	149	—
その他	11	1
営業外費用合計	171	13
経常利益	4,291	3,768
特別利益		
貸倒引当金戻入額	0	4
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	4
特別損失		
固定資産除売却損	16	4
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	189
特別損失合計	16	194
税金等調整前四半期純利益	4,276	3,579
法人税等	1,694	1,419
四半期純利益	2,582	2,159

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	4,276	3,579
減価償却費	633	628
固定資産除売却損益(△は益)	4	3
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	189
持分法による投資損益(△は益)	149	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△0	△4
賞与引当金の増減額(△は減少)	△1,396	△1,432
退職給付引当金の増減額(△は減少)	7	△60
受取利息及び受取配当金	△119	△118
支払利息及び支払手数料	14	11
売上債権の増減額(△は増加)	233	△1,098
たな卸資産の増減額(△は増加)	△32	△499
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△72	△210
仕入債務の増減額(△は減少)	△139	606
その他の流動負債の増減額(△は減少)	2,629	2,536
その他	△801	△246
小計	5,387	3,885
利息及び配当金の受取額	119	118
利息及び手数料の支払額	△17	△16
法人税等の支払額	△3,261	△3,216
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,227	769
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1,750	△1,750
定期預金の払戻による収入	1,750	1,750
有形及び無形固定資産の取得による支出	△698	△308
その他	△10	3
投資活動によるキャッシュ・フロー	△708	△304
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△1,372	△1,564
自己株式の取得による支出	△11	△6
自己株式の売却による収入	—	1
その他	△8	△9
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,392	△1,579
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	126	△1,114
現金及び現金同等物の期首残高	20,377	26,434
現金及び現金同等物の四半期末残高	20,504	25,319

- (4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。
- (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

4. 補足情報

(1) 主要製品の売上高

主要製品の売上高

(平成23年3月期 第1四半期実績)

(単位：億円)

製 品 名	前 期 平成22年3月期		当 期 平成23年3月期		対前年 同四半期 増減率 (%)
	第1四半期 実績	年間 実績	第1四半期 実績	年間 見込	
高脂血症・閉塞性動脈硬化症治療剤 エパデール	92	375	90	362	△ 3
持続性Ca拮抗降圧剤 アテレック	36	149	35	153	△ 3
子宮内膜症治療剤 ディナゲスト	7	36	11	44	+ 45
抗ウイルス剤 アラセナーA	6	25	6	23	△ 0
肺炎・ショック治療剤 ミラクリッド	5	21	5	19	△ 4
自律神経調整剤 グランダキシン	4	16	4	15	△ 7
血液凝固阻止剤 ノボ・ヘパリン	4	17	4	14	+ 1
子宮内膜症・子宮筋腫治療剤 スプレキュア	3	13	3	13	+ 1
止血剤 トロンビン	3	13	3	11	△ 10
真菌症治療剤 フロリード	2	11	2	11	+ 11
スキンケア製品 コラージュ類	7	28	7	30	+ 1
スキンケア製品 スキナ類	1	6	1	6	+ 1

(2) 医薬品開発状況

医薬品開発状況

開発番号(製品名、一般名など) : 導入先など			
開発段階	適応症	剤型	備考
MLD-55(未定、エシタロプラム) : デンマーク ルントベック社から導入			
* 承認申請準備中	うつ病	経口剤	
MD-0701(未定、トレプロスチニル) : 米国ユナイテッド・セラピューティクス社から導入			
臨床第Ⅱ/Ⅲ相	肺動脈性肺高血圧症	注射剤	
FSK0808(未定、遺伝子組換えG-CSF) : 富士製薬工業(株)と共同開発			
* 臨床第Ⅱ/Ⅲ相	好中球減少症	注射剤	バイオ後続品
MD-0901(未定、メサラジン) : 英国シャイア・ファーマシューティカルズ・グループ社から導入			
* 臨床第Ⅱ/Ⅲ相準備中	潰瘍性大腸炎	経口剤	
MTD-39(ベセルナクリーム、イキモト) : 豪国アキノバ・ファーマシューティカルズ社から導入			
* 臨床第Ⅱ相終了	日光角化症	外用剤	< 効能追加 >
MND-21(エパデール、イコサペント酸エチル)			
臨床第Ⅱ相	非アルコール性脂肪肝炎	経口剤	< 効能追加 >
MR-20V(未定、ウナスタチン)			
臨床第Ⅱ相	切迫早産	腔坐剤	< 剤型追加・効能追加 > 一時中断
JR-031(未定、ヒト間葉系幹細胞) : 日本ケミカルリサーチ(株)と共同開発			
臨床第Ⅰ/Ⅱ相	移植片対宿主病	注射剤	細胞性医薬品

* 変更等のあった品目